

# かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)

電話 66-1311  
FAX 66-1314



## 笠尋分教会

昭和28年5月26日 設立

### 陽気ぐらしを目指して、たすけの輪を広げよう

今一手一つに、一步一步！

- \*一教会、初席者一名以上
- \*おさづけを身近に
- \*百万件のにをいがけ

一人ひとりの信仰生活の充実 ~プラスαを目指して~

- \*教会に参拝し、おちぼの理を戴こう
- \*心を込めておつとめをしよう

創立百三十周年記念祭並六代会長就任奉告祭

立教184年(2021年)10月24日 執行

立教184年

5・6  
月号

# 四月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます 親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様の親心一杯のご守護により空は光り輝き 桜に続いてツツジの花が咲き始め 春告げ鳥の声が山々に高らかに鳴り響いて 春爛漫の季節を味わわせて頂いております事は 誠に嬉し樂しの極みであり 大変喜ばせて頂いております しかし一方ではコロナの感染が徐々に拡大し 今まで通りの行動がままならない状況であり つらく苦しい思いも同時に味わわせて頂いております その中この状況を乗り越えようと気持ち前向きに努力する者 こんな中だからこそ人の為を心に遣い助け合いをする者が居ます事は 大変心強い限りでございます それに負けじと道の者は「世界一列を救いたい」との親心とお働きを伝え 身上事情の元は心一つの理にあり「人救けて我が身助かる」の真理を一人ひとりの心に映していくべく今出来る限りのたすけ一条のご用の上に励ませて頂いております 又先日四月十八日は 教祖二百二十三回目のお誕生日に当たり 多くの人は帰参出来ませんでした 各々の教会や自宅でおつとめをさせて頂き共にお祝いを申し上げさせて頂きました 誠に有難く存じます そして本日はこれの笠岡の御祭り日でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 喜び感謝の心も一人に 教祖に教えて頂いた通り 明るく陽気に勇んで 坐りづとめてをどりをつとめて 四月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前にはコロナ禍の中にあつて 言改めて御礼申し上げます 又コロナ禍を一日も早く終息を願いたいと 寄り集いました皆の真実の状をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて二十九日の全教一斉ひのきしんデーは 皆が寄り集まってひのきしんに励む事は出来ませんが 世界中の道の子がこの日ひのきしんに励んでいる事を感じながら たとえ一人でも家族単位でも 勇んでひのきしんをさせて頂きたいと存じます 又来月はコロナ感染防止に充分配慮しながら直轄教会の巡教をさせて頂きます コロナ禍で心を倒さないよう励まし合うと共に 今だからこそ自分の信仰を見つめ 助かりたいから救けたいに方向転換し身近な人からその心を映して「たすけの輪」が広がるよう努めさせて頂く所存でございます 加えて今年も夏のこともおちばがえりや 学生生徒修養会高校の部の中止が発表になりました おちばでお仕込み頂けないからこそ 親が直接仕込んでいかなければならない事を自覚し これも良い機会と捉え舟精に力を注いでいく所存でございます

何卒親神様には「成ってくるのが天の理」と全て親神様のたすけ心の現れと捉え たすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さり 万たすけの上に更なる自由のご守護を賜りまして 親心に触れ 親の働きを知り かしものか りものの喜び感謝の心一杯にご恩報じを念じる人が 弥増して 万互いが欲を忘れて救け合つて 陽気ぐらしを満喫出来る日が一日も早く訪れますようお願いの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

## 大教会だより

〓 人事 〓

立教184年4月21日付

◎登 用

雅楽奉仕人 北川 茂 久

◎職制人事

(学担当委員長以外)

会計部

部長

佐藤 道 孝

学生担当委員会

委員長

上原 繁 次

副委員長

佐藤 真 孝

副委員長

杉原 善 朗

副委員長

高田 一 弘

委員

浅野 明 教

〓

上原 一 始

〓

岡崎 治 喜

〓

藤本 晴 司

〓

貞清 知 実

〓

森川 道 弘

〓

本多 正 悟

〓

下田 誠 輝

〓

上原 喜 三

〓

藤井 成 人

〓

武内 成 人

## 五月月次祭祭文

此の笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます 親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます  
 親神様には一列子供の陽気ぐらしを楽しみに 親心一杯にご守護下さり陽気ぐらしへとお導き下さっております 分  
 けても今はサツキが咲き始めたばかりなのに 例年より早くもう梅雨入りとなり 連日雨が降ったり止んだりが続  
 返されて すっきりしない天気が続いています まるで外出の自粛を促して下さっているようにも感じます 東京・大  
 阪等に続き岡山・広島にも緊急事態宣言が出され 人々の往来が制限され 普段通りの生活がままならない状況ではあり  
 ますが 非日常を楽しみむ術をお与え下さっております事は 誠に有り難い事と喜ばせて頂いております そして道の子  
 は改めて教理の探求をさせて頂くと共に 電話やネット等を使って一人でも多くの人に親心を伝えるべくにをいがけ  
 おたすけに励ませて頂いております

その中 今日の日吉日は この教会の五月の月次祭をつとめる日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同  
 喜び感謝の心一杯に 明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりを勤めさせていただきます 本日は緊急事態宣言の関係で  
 おつとめ奉仕人以外の方の参拝をお断りさせて頂くと共に 備中・備後地域在住のおつとめ奉仕人のみで勤めさせて頂  
 きます 来られない人々の思いも込めて勤め 又来られない人は教会や自宅でおつとめを勤めて 共に日頃の御高恩に  
 改めて御礼を申し上げます 一日も早いコロナ禍の終息を願いたいと存じます 皆の真実の状をご覧下さいまして 親神様  
 にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて 記念祭奉告祭まで 後五ヶ月でございます 本来ならば 三年千日と仕切つての成人の歩み総仕上げの時期でござ  
 いますが 声掛けは出来てもおちば帰りがままならず 何とも菌痒い思いでございます それだけにおちばへの思い  
 をより強くして コロナ禍に負けないよう 成人していく所存でございます 又 高齢者からではありませんが 一般の人  
 にもワクチンの接種が始まり 一日も早いコロナ禍の終息が期待されますが 肝心なのは コロナ禍を通しての人々のこ  
 ころの変化であり 助け合いの輪が広がっていく事だと思わせて頂きます 「たすけの輪を広げよう」の合い言葉は  
 記念祭に向かってだけのものではなく よふぼくの使命として再確認し これから益々たすけ一条の上に励ませて頂く  
 所存でございます

何卒 親神様には 陽気ぐらし世界建設のよふぼくとの自覚を高め 今まで以上にたすけ一条に邁進する皆の誠真実の  
 心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に尚一層のご守護を賜り 共にたすけに邁進する人が増殖して 一日も早く  
 陽気ぐらしの世の状が訪れますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

掛谷喜代子  
 北川茂久

◎教人資格講習会修了者(全期)

立教184年6月10日終講  
 高屋 武内 ゆかり



6月が近づくとうとう憂うつな日が続く。  
 県庁提出書類(予算管理簿)の提出日  
 が迫ってくるからだ。支部への締切は  
 6月2日。

毎年、4月になったら始めようと  
 思っている。昨年も、その前の年もそ  
 うだったと思うが、結局、間近になっ  
 て大慌てるのだ。

立教百八十四年 四月月次祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぼん	笛	おつとめてをどり			地方	役割 区分		講話	祭主		扨者						
									大教会奥様	上原繁道	上原明勇		大教会長様	三代温生		虫明立生	上原志郎	坐り勤	前	後	大教会長様	中村道徳	山野弘実	赤木素志
今川佐智子	上原順子	佐藤香苗	武内清明	佐藤道孝	中島誠治	田中隆之	岡崎真一	今川昌彦	田中ますみ	上原愛美	大教会奥様	上原明勇	大教会長様	三代温生	虫明立生	上原志郎	坐り勤	前	後	大教会長様	中村道徳	山野弘実	赤木素志	佐藤真孝
三島照美	笹尾一美	森本富美子	赤木素志	山田敏教	高木昭祥	三島 涉	中村道徳	佐藤真孝	高木孝子	門脇加津	武内正美	横山逸郎	岡崎真一	中村 剛	吉岡誠一郎	田中隆之	前	半	半	六月講話	三島 涉	門脇元教	赤木素志	佐藤真孝
吉岡八恵	山野なつ	横山小智榮	浅野明教	杉原善朗	内海史郎	虫明立生	三代温生	岡田 誠	田中つかさ	岡崎和美	岡崎豊子	森本忠善	中島誠治	門脇元教	渡邊隆夫	今川昌彦	後	半	半	三島 涉	門脇元教	赤木素志	佐藤真孝	佐藤真孝

立教百八十四年 五月月次祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぼん	笛	おつとめてをどり			地方	役割 区分		講話	祭主		扨者						
									大教会奥様	上原繁道	上原明勇		大教会長様	内海史郎 <th>山野弘実 <th>田中隆之 <th>坐り勤</th> <th>前</th> <th>後</th> <th>大教会長様</th> <th>今川昌彦</th> <th>森本忠善</th> <th>山田敏教</th> <th>岡田 誠</th> </th></th>		山野弘実 <th>田中隆之 <th>坐り勤</th> <th>前</th> <th>後</th> <th>大教会長様</th> <th>今川昌彦</th> <th>森本忠善</th> <th>山田敏教</th> <th>岡田 誠</th> </th>	田中隆之 <th>坐り勤</th> <th>前</th> <th>後</th> <th>大教会長様</th> <th>今川昌彦</th> <th>森本忠善</th> <th>山田敏教</th> <th>岡田 誠</th>	坐り勤	前	後	大教会長様	今川昌彦	森本忠善	山田敏教
佐藤香苗	今川佐智子	虫明好美	赤木素志	高木昭祥	三島 涉	中村 剛	佐藤道孝	佐藤真孝	田中ますみ	上原愛美	大教会奥様	上原明勇	大教会長様	内海史郎	山野弘実	田中隆之	坐り勤	前	後	(なし)	森本忠善	大教会長様	今川昌彦	山田敏教
高木孝子	田中つかさ	内海安子	虫明立生	岡田 誠	山田敏教	三島 涉	中村 剛	上原繁次	山野なつ	岡崎豊子	上原順子	武内清明	岡崎真一	上原志郎	森本忠善	佐藤道孝	前	半	半	七月講話	上原繁道	山田敏教	岡田 誠	山田敏教
三島照美	上原愛美	笹尾一美	内海史郎	武内清明	虫明立生	上原志郎	赤木素志	上原明勇	田中つかさ	岡崎和美	大教会奥様	山野弘実	今川昌彦	田中隆之	高木昭祥	岡崎真一	後	半	半	上原繁道	上原繁道	山田敏教	岡田 誠	山田敏教

まず、もみじ饅頭の空箱に無造作に入れられた領収書を月ごとにまとめ、使用したお金が何の項目(祭務、教務、維持、人件費など)に当たるか分け、お供え収入も管理台帳に記入していく。正直、どれがどの項目に該当するのか良く分からないのが現状だ。

次の作業が電卓片手に老眼鏡を上下にしつつ、パチパチと数字を確めながらの計算。やっと終了と思いきや合計金額が合わない。何回やっても同じこと。ついには何が何だか分からなくなる。最後は支部担当者に助けを求めてやっと完了。

親しい教会長曰く「パソコンで専用のソフトを利用すれば計算間違いもなく簡単に出来る。今どき電卓使って何やっとなるんじゃー」とのこと。

「それが出来んけー頑張っとなるんじゃー。わしゃーアナログ人間じゃ。文句あるきゃー」と私。

考えてみると、教会に繋って下さる方々の支えがあつて教会へのお供えがあり、必要に応じて使わせて頂けるから収支の報告が出来るのだ。

「なにゅー面倒くさがつとなるんじゃー! ちゃんとやれ〜」

どこからか声が聞こえた。(き)